

12月定例会の一般質問から

市税収入の減収50億円

予算編成への取り組みは

問

厳しい経済状況の中でも、本市が将来にわたり持続的に発展していくには、中小企業支援や都市基盤の整備など、市民サービスをバランス良く推進していく必要があると考えている。そこで、中期財政計画で、968億円と見込んでいる平成21年度の市税収入を現時点でどう見込んでいるのか。

また、市税の減収が見込まれる中、どのような予算を目指し、どのような予算編成に取り組むのか、併せて伺う。

答

市税は、世界的な金融危機や世界経済の減速などによる国内景気の急激な落ち込みにより、現段階では、中期財政計画と比べ50億円程度の大減収が避けられないと見込んでいる。新年度予算は、大幅な市税の減収が見込まれる中にあるため、第5次総合計画の策定後に編成する初めての予算であるこ



▲宇都宮市役所本庁舎

とから、その着実な実現に向けて、確実な一歩となる予算を目指す。

このため、予算編成にあたっては、徹底した行政改革への取り組みはもとより、国・県補助金などの特定財源の最大限の確保を図るほか、基金や、市債の計画的かつ効果的な活用により、市税の減収の影響を最小限に止めながら、中小企業支援などの経済対策、都市基盤の整備、子育て支援など、本市の将来を見据えた施策・事業を着実に推進し、すべての市民が「やさしく住みやすいまち」の一つのみや」を実感できるよう、ハード・ソフト両面にわたり、バランスの取れた予算となるよう、全力で取り組む。

悲願達成 栃木SCのJ2昇格 今後も積極的に行政支援すべきでは

問

栃木SCについては、市民や県民の支援もあって、ついにJ2昇格が決まり、大変喜ばしい限りである。しかしながら、Jリーグへの昇格条件として、増収や増資が求められ、運営面ではかなり厳しい状況にある。大活躍した監督との再契約が出来なかったのも、資金不足であることが察せられるところである。

そこで、本市も施設改修などの支援のほか、金銭面での運営補助ができないか、前向きな見解を伺う。

また、施設面では、クラブハウスを、人工芝化された市サッカー場内に設置してはどうかと考えるがいかがか。

答

栃木SCの運営面に関する出資金などの資金確保については、まず、クラブの努力により行うものと考えており、さらに、市民やサポーターに素晴らしい試合、感動を与えるプレーを見せることで、スポン

サーなどによる多くの支援が得られるものと考えている。

行政としては、栃木SCの安定経営につながるようファン層拡大などの側面的な支援を行い、一人でも多くの方にスタジアムに足を運んでいただけるよう支援していく。



▲選手が小・中学校を訪問する「ゆめプロジェクト」

また、クラブハウスの市サッカー場内への設置については、地域貢献活動などを行うにあたって、その利便性が高まるものとなることから、民間の協力や市民の利用に配慮しながら、検討していく。

家計緊急支援対策 「生活支援定額給付金」の申請方法は

問

世界的な景気後退局面に対し、国民生活と日本経済を守るための家計緊急支援対策の大きな柱として、政府与党により総額2兆円規模の「生活支援定額給付金」を交付する方針が決定した。

11月28日に総務省から提示された事業概要によると、事業主体は市町村で、受給権者は世帯主である。給付額は一人一万二千元で65歳以上と18歳以下は八千円が加算されるが、事業の詳細は今後、地方自治体の意見を集約し、詰めることになっている。そこで次の3点について伺う。

- ①「定額給付金」についての率直な感想は。
- ②本市における給付総額と所得制限、申請方法等の検討状況は。
- ③「定額給付金実施本部等」を設置すべきと考えらるかどうか。

答

①厳しさを増す社会経済環境の中で、実効性のある景気対策経済政策は喫緊に求められ

- ②給付総額は加算額も含め約75億円程度になる見通しである。所得制限については、各市町村との連携を図るとともに給付金の趣旨や公平性の確保、事務手続きの簡素化、迅速化などを踏まえながら考えをまとめていく。申請方法についても、市民にとって負担が少なく混乱を招かないよう本市としての最適な実施方法の検討をしていく。
- ③膨大な事務を短期間で迅速かつ的確に執行する必要があるため、実施本部等を早急に整備し全庁を挙げて取り組んでいく。

